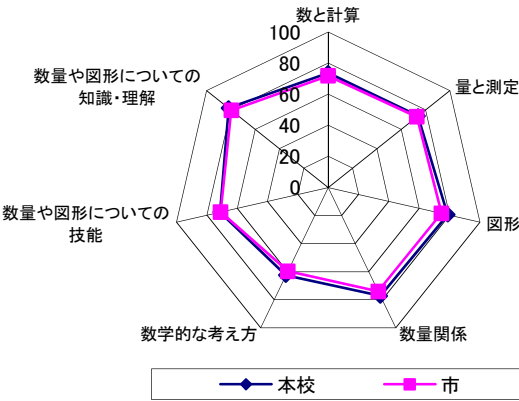


宇都宮市立宝木小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	73.6	71.8
	量と測定	73.7	72.8
	図形	78.8	74.7
	数量関係	77.3	74.1
観点別	数学的な考え方	62.6	59.7
	数量や図形についての技能	71.2	70.9
	数量や図形についての知識・理解	81.9	79.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、おおむね市の正答率より上回った。 ・「 400×7 の計算の仕方を説明する」「大きな数で(○が何個)」という問題では、それぞれ市の平均より10ポイント、7ポイントと上回った。 ・ $2\text{けた} \times 1\text{けた} = 3\text{けた}$ 、 $2\text{けた} \div 1\text{けた} = 1\text{けた}$ (余りなし)の計算の2問の正答率が下回った。また、 $4\text{けた} - 4\text{けた}$ (波及的くりさがり)の計算の正答率が全体から見ると低かった。	・授業時間等を活用して、かけ算・ひき算の問題を反復して練習する。また、家庭学習においても、ドリルやプリント等を活用して繰り返し練習するよう指導する。
量と測定	・平均正答率は、おおむね市の正答率とほぼ同じか、上回るものであった。バスの長さを適切な単位で表す問題、長さの長短を見え分ける問題、ある時刻から一定時間がたった時刻を求める問題は正答率が高かった。2つの時刻から時間を求める問題、かばんの重さと全体の重さからなかみの重さを求める問題で正答率が低かった。	・「時刻と時間」についての学習では、時間を求める場面を日常生活の中で使えるように扱ったり、時間を求めるような練習を多く取り入れるようにする。また、実際にはかりを使って、重さを測定する算数的な活動を取り入れることを通して、日常生活の中で重さの量感を育てられるようにしていきたい。
図形	・「直方体の同じ長さの辺の数」「直方体を作るときに必要な面の形と数の理解」の2問中2問とも、市の正答率を4ポイント上回った。	・身近な箱を使って、辺の数を数えたり、箱を切り開いて面の形を調べたりする算数的な活動を取り入れる。同じ長さの辺の数や同じ大きさの面の数などについて自ら進んで調べたりたしかめたりして、きまりを発見する学習が展開できるようにする。
数量関係	・平均正答率は、市の正答率を上回る問題が多かった。「 $\square \times 5 = 30$ になるお話を選ぶ問題」「 $\square$ を使った問題の場面の図を選ぶ問題」では、市平均を12ポイント、6ポイント上回った。棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示す問題では、市の正答率を4ポイント上回った。	・ $\square$ を使った文章問題では、立式だけではなく、問題場面をテープ図や線分図を活用してとらえ、視覚的に理解が深められるようにする。 ・棒グラフでは、条件に合った項目が選べるような問題場面を設定したり、多様なグラフの見方をしたりできるように授業内容を工夫していく。